

【めむろ未来ミーティング日程7】

令和6年1月11日（木）

13:10～14:15

- 参加者 6人
- 芽室町 町長、副町長、教育長
農林課長、環境土木課長、魅力創造課参事
政策調整係長
- 記録 広報広聴係

■対応・検討が必要な事項

- ①祥栄ふれ愛館にエアコンを設置してほしい(都市経営課)
- ②総合体育館に冷房を付けてほしい(生涯学習課)

- 1 開会
- 2 町長挨拶
- 3 町からの説明事項
資料1 公共施設再配置構想
資料2 新嵐山スカイパークの在り方
- 4 意見交換

【参加者】

新嵐山の件について、町に対して出た意見・要望で多かったものなどは分析できているのか、分かっている部分を教えていただきたい。

【町長】

資料にあるとおり、未来ミーティングで3回の説明会を開催し、LINEでのアンケートが135件。ワークショップも2回開催している。ホットボイスも議会宛を含め100件以上来ている。更に今回の13会場でも意見をお聞きする。今後、今までの意見を分析させていただき、どういう傾向にあるのか見ていく。単に数字や声大きい意見ということだけでなく、町としてどんな機能が必要なのか2月末くらいまでに分析してまとめたいと考えている。今の段階で何をどうしたりという明確なものはない。

しかし、9割以上の方から新嵐山を残したいという声がある。今の状況としては残すためにどうするか、再開のためにどうするか考えるのが自然と捉えている。山を無くすかどうか、そこから始めるべきかもしれないが、無くすという観点はまずないと考えている。そこまでが今おおむね私達の方向性として決めているところ。皆さんからは180度違う意見をいただくこともあり、全員に納得いただくのは難しい。まちの方向性は、一つにまとめなくてはならない。

これからあり方、骨格が出た段階でも町民に対して説明会のようなものを行いたいと考えている。都度、その段階で、随時皆さんの声をお聞きするのが大事だと思っている。

【参加者】

新嵐山に関する話し合いについて。当初あんなに意見が出ており、説明会にも多くの人出席した。町民が関心を寄せているはずだが、その後のワークショップは29人。LINEやホットボイスでないと意見が言いづらい人がいるのは理解するが、今後の方向性を考えるときに、果たしてこの二十数人の参加者が町民の総意なのか疑問に思う。先ほどの町長が言われたとおり、決まった段階で報告、まとまった意見に対してどう思われるのか聞く場を設けるのが良いと思う。

【町長】

個人的な感覚もあるが、説明会のときにはものすごい人数が来られて、どちらかといえば今まで新嵐山を利用しての方が多かった。例えば山は要らないという意見を持っていたとしても、あの場でそうは言えない雰囲気があったと思う。

私自身、ワークショップはもう少し応募があると思っていたというのが正直なところ。やや時間が経っていたのもあり、少し熱が冷めたのではという感覚。これからの分析は結構難しいのではないかと考えている。

今回の未来ミーティングでも、新嵐山の話が多いのは間違いない。しかし、人数自体はさほど多くなく、否定的な意見もあまりない。私達からも、段階ごとに提案なり考え方を示していかなくてはならない。

言い訳になってしまうが、前回の反省として、新嵐山

の活用計画を作って皆さまに周知していく時期とコロナ禍が重なってしまった。説明会も開催したが、二十人、三十人くらいしか出席者がいなかった。

なかなか最近の住民参加は難しい部分もあり、こうした場に出て意見を言っていただけのような方も多くない。隠れた意見というのはなかなか引き出せない。

【参加者】

新嵐山スカイパークの話なのにスキー場の話ばかり出てきたり、総合的に考えていない、偏った意見の人もいる。川北の人からすれば、わざわざ新嵐山に行くことはほぼないと思う。しかし、あそこは防災拠点としての機能など、多面的に利用できる施設である。スキー場単体で黒字は難しい話なので、公共施設としての側面など含め説明していかなくてはならないのでは。分かっていない人がほとんどだと思う。

【町長】

スキー場単体で黒字を出すというのは、あの規模ではほぼ無理だと思っている。しかし、今おっしゃったとおり平成28年の震災時には洗濯機を並べたり、被災者にお風呂を使っていたりなど、防災拠点としても使わせていただいた。

あるいは夏場どうするのか、スキー場だけではなく、総合的に通年でどうするのか考えなければならない。町民にサービスを提供する場合は、その部分は赤字になっても提供するということも必要ではないか。

【参加者】

赤字と言ったらそういうイメージが付きやすいのではないか。町民の宝だというのであれば、宝に育てるのは町民だと思う。新嵐山に行かない、使わない、お金を落とさない人が文句を言う。

災害対策や福利厚生で考えたときに、例えば年間2億円かかったとしても一人当たりいくらになるのか、それを許容できるのか。それが一番簡単な提案の仕方ではないか。

自分ごと化会議に出席したとき「新嵐山は外からお金を持ってきて払ってもらう価値がある場所だと思っている。運営資金は外から来る人から頂いて、町民も

それを享受する」と提案したところ、他の参加者から分かりやすい説明だと感想をいただいた。そういうふうを考えてもらうような理事者側の説明が、ちょっと足りなかったのではと思う。

【参加者】

町の南には新嵐山があるけれど、北にはこれがある、西にはこれがある、といった防災や教育の拠点の一つとして説明していく方法もある。それがないと、どうしても赤字のスキー場という面で見られてしまう。

【町長】

色々な機能があって、それが町民にとって必要だということを出していくのは必要。去年の7月の時点で従来の3セクは難しいと判断し、新たな担い手を検討してきた。本当は指定管理期間を1年間伸ばしていただいて、借金を少なくするだとかソフトランディング、次の担い手にいかに引き継いでいくかというのをやりたかった。それは議会の議決によってストップがかかったところもあるが、もともと3セクをやめて民間に委ねていく方向性で考えていた。そのことと議会の議決は直接は関係ない。今さら元に戻ってどうこうはできないので、私としては前に向けていかにやっていくか。それしか頭にない。

ただ、色々な経験もさせて頂いたので、前と同じことを繰り返すわけにはいかない。ご意見にあったように、しっかり発信を行い、意見をどう取り込んでいくのか。慎重に考えていかなければならないと思っている。

【参加者】

町長は新嵐山の改革について選挙公約で掲げていたと記憶している。稼ぐ行政ともいうけど、昔の常識では稼げるわけがないと言われていた。池田町は丸谷町長の時代にワイン事業を始めて、資金を投入しながらも頑張っている。それが主眼となって北海道初のワイナリーができた。これはすごいことだと思う。

ああいう意味でいうと、やろうと思えば稼げる。自分たちの場所の魅力を発信し、外から来てもらってお金をいただくのは何も恥ずかしいことではない。ふるさと納税制度もそうだが、今はアイデアがないところには

国もお金を出さないというスタンスになっている。

明確に町のカラーを出せる時代が来て、町長はもっと発信し続けた方が良く、こういう考え方はできませんか？といった発信も町民に出し続けるのが良いと思う。スキーにせよやはり新嵐山だけを利用する人はなかなか多くない。違う多様性を見せて町民の理解をいただき、外からのインバウンドを含めて、こんな場所には他にないということに気づかせてもらう。時間はかかると思うが、ワクワクさせるような説明が大事だと思う。

【参加者】

ファットバイクを3回ほど利用したことがあるが、良かったと思う。町を挙げてやることではないかもしれないが、初めての利用であれを使っても良いと思うし、そのうち本当に好きな人達が集まり、聖地のようなかもしれない。それを全面に出しても良かったのでは。議員の方の中には、あの現場を見に来ていない方もいたのではと思う。私は初めて見させてもらったとき、あの賑わいを見て驚いた。町民の中にもあれを見ていない、利用していない人は実態を知らなかったと思う。

民間で運営の担い手として手を挙げている業者があるというのであれば、それが現実。町のため、教育のため、防災のために必要な投資だという説明上の工夫は必要だと思う。

【町長】

説明については、本当に上手くやっていかなければと考えている。説明会のときに、全世帯に新嵐山が必要かどうかアンケートをしてみてもどうかとの意見が出た。公の施設的なところもあるので、利用する人にとっては必要だが、17900人全員が使っているわけではない。使っていないので要らないという意見が多数になるのかもしれない。しかし、公の施設とはそういうもので、例えば体育館もスポーツをしていない、利用していない人からすれば要らない。

そうは言いつつ、利用している人だけの意見に偏っていくのもどうかと思う。その意味では、潜在化している意見を何とか取り上げなくてはと考えている。LINE

アンケートの回答数135件というのはなかなかの数字で、中には早期に再開してほしいという意見も、本当に施設が必要なのかという意見もあった。

【参加者】

ふるさと納税が好調だと思うが、寄附金の希望用途として新嵐山に使ってほしいというものはあるのか。

【町長】

ふるさと納税の中ではあまりない。しかし、今後の取り組みとして例えば新嵐山再建のためのクラウドファンディングや企業版ふるさと納税を活用するという方法はあると思っている。その辺りは担当の方で企画を作り、再開前からやっても良いのではと思っている。

ふるさと納税の方は3年前の1億円、去年の2億7000万円、今年は4億4000万円くらいまで伸びそうな状況。現在、担当の方でも5億円、上手くいけば10億円まで伸ばそうということで尽力している。事業者の皆さんにもご協力いただき、上手くやっていると思う。

【参加者】

新嵐山展望台について、バイクでも車でも自転車でも直接上がれるような状態であるべき。函館山の夜景のように、上から見たらこんな景色が見られるんだというように誰でも上がれるようにしなくてはならないと思う。リフトを使った人だけが登れるようにするのは賛同できない。

【町長】

展望台については新嵐山株式会社の管轄外なので、これからも整備していきたい。町民の方からも、あそこを整備するのに反対意見はそう出ないのではと思っている。

道路についてはいろいろな場で言われているが、あそこは林を管理するための林道。下から拡幅含め整備しようとする、3億円くらいかかる。去年は農林課の方で舗装整備や枝払いといった維持管理はさせていただいた。今後は古くなった展望台、トイレ整備も考えていきたい。

【参加者】

夏場は展望台までの登山道を使う人を多く見かける。今は車も人も自由に上がれる状態だが、利用者が増えれば事故が起こる可能性があると思う。私は交通をある程度制限してしまうのも手だと思っている。

架け替えにお金はかかるが、高速リフトを1台用意し夏場も稼働できれば、夏もレジャーとして楽しめるのでは。人だけでなく自転車を積むこともできるので、下る側のマウンテンバイクのコースを用意したりできる。また、上に販売所やレストランを整備し、ワインや食事が振る舞われるような場所があっても良いと思う。

【参加者】

全部を町でやるのは難しいのでは。そういったものは民間、例えば協定を結んだモンベル社の方でやってもらえると良いと思う。

【町長】

モンベル社との町づくり協定は去年6月に締結している。その後7月に第3セクターでの経営を断念という判断に至っており、新嵐山とモンベル社の連携協定は別の話。

モンベル社とは数年前から話を進めており、町づくりに対しアウトドアのノウハウを使って協力いただく旨の合意をいただいた。協定後に新嵐山が破産となり、民間事業者に運営を依頼しようにも、闇雲に声掛けをするわけにもいかない。そこで、たまたま町づくり協定を締結していたモンベル社にネットワークを通じてスキー場運営のノウハウのある事業者をご紹介いただくと考えた。そこで同社から運営に関わっていただける旨の申し出をいただいた。

しかし、モンベルはスキー場をメインにどうこうというのは考えていない。どちらかといえばアパレル、アウトドアの会社なので、夏場の活用などがメイン。物を買って来たついでにスキーができる、キャンプができる、そういった付帯施設として捉えていると思う。飲食もコーディネートが必要。モンベル社が全部入ってきて運営するというより、プロデュースはしたいが地元でも担える部分があれば探してくださいという感覚だと思う。最終形としてはJV(共同企業体)のようなものにな

ると予想している。

【参加者】

そういった形になるのであれば、スキー教室などに対して説明が必要だと思う。

【町長】

もちろん、そのように認識している。スキー場は来年の今頃のシーズンには直営でも一部オープンしたいと考えている。スキー関係者の皆さんにお手伝いいただくことも必要と考え、継続して協議を進めている。

【参加者】

川北の学校跡地の利用構想について、詳細が分かればお知らせをいただきたい。

【政策調整係長】

7月から地域の方とワークショップを行っている。今年の3月までに青写真を北大の方にコーディネーターいただいている。そこで一旦報告するような形で考えており、その時期が来たら地区の方々にもご案内したい。

【参加者】

① 祥栄ふれ愛館の管理について。地区で水害が起きた場合、高台で避難できる場所を考えるとここも候補になると思う。しかし、エアコンがないので夏場は暑くて無理だと思う。避難所としての運用を考えるのであれば、エアコン設置を要望したい。

【参加者】

以前にも地区が被災した際、ここが避難所になったが、駐車場が足りないと思う。提携駐車場を用意し、ふれ愛館に避難するときはそこに停めて良いというふうにしなくては、避難所として機能しないのでは。

【町長】

去年も相当暑かったため、エアコンの要望は他からも出ており、把握している。

【参加者】

町内の地域会館でエアコンが付いているところはあるのか。

【町長】

建て替えたところは付いている。全ての会館に付いているわけではない。小さいところだと割と工事費も少なく済むが、これだけ大きいと業務用のものが必要だと思う。

【参加者】

家庭用のものを複数台付けた方が良いケースもある。ビニールハウスを冷却するのに家庭用のエアコンを複数台稼働させた方が、負荷がかからずコストが安いという研究結果を見たことがある。そう考えると業務用のものを1台入れるより、家庭用を2、3台入れた方がトータルでは安く済むのでは。

【町長】

要望として把握した。ただし、順番があるのは承知いただきたい。

【参加者】

学校跡地の件について。大学生の方も様々な都合があると思うが、ワークショップが開かれても参加者が4人など少人数であった。その中で出た意見で方向性を決めていく形になるのか。

【政策調整係長】

担当部署としては、今こういう形で進んでいますというのを一度地域の方に知ってもらいたい。現在、どういったやり方でお知らせしようか考えている。

ただ、学生が考えてきたものを全てそのまま決定するわけではない。町の方とも協議をしながら最終的な方向性を出していきたい。

【参加者】

前回の会議で大学生の方からいただいたプランが、現実味に欠けるものであった。すぐ夢があって楽しいプランだとは思いますが、お金・利益の面、現実的なこと

ろも見ていただければ。将来性のある話をいただければ、地区の者も納得できる答えに繋いでいけると思う。

【町長】

夢も大事だが、現実的にできないのでは困る。その辺りの詰めは町の方でもしっかりやっていきたい。この地域だと、皆さんが集まるタイミングに説明にお伺いするのが良いと思う。

【参加者】

その通りだと思う。今日の未来ミーティングにも来るように促しても、この人数しか来ない。来た時に出向いてもらわなくては、全然来てくれない。住民の意見を汲める場を作って、そこに出向いていかななくては意見が出てこない。

【町長】

本当は決められた日に集まってほしいというのはある。地域とも日程を調整した上で、会合の際にお時間をいただく形で何うのが良いのかもかもしれない。

【参加者】

① 総合体育館に冷房を付けてもらうことはできないか。夏に使わせてもらうことがあるが、外よりも暑いのではという日がある。エアコンは難しくとも、換気を工夫してもらうことはできないかと思う。子どもや高齢者は熱中症になるのでは。

【教育長】

冷房について要望があるのは把握している。しかし、まずは冬の暖房工事をしようということで、10月から3月まで実施している。冷房はその先ということで、一気にはいかないが念頭にはある。

【参加者】

冷房にせよ暖房にせよ屋根、外壁といった建物自体を改修しなくては熱が逃げてしまっとうまくいかないのでは。あの大きさなので、建物を二重構造にしなくては無理だと思う。

【町長】

根本的に直すのは現実的には厳しい。換気は換気でバドミントンをしていると風が入ると良くないなど、いろいろ問題が出てくる。まずは考えるところからスタートしたい。昭和53年からの建物なので、当時ここまで暑くなるというのを考えていないと思う。

【参加者】

構造を変えていないのであれば、屋根からの放熱と射熱を抑えられない。無駄だと思う。

【町長】

いずれにせよ37、8度の状況でスポーツはできる状況ではないので、対策を考えたい。

14時15分終了

